〔泌尿紀要30巻11号
1984年11月〕

東札幌三樹会病院における臨床統計

（第1報）1983年度外来新患統計

東札幌三樹会病院（院長：丹田　均*）
丹田　均・加藤　修爾・大西　茂樹
坂　文敏・中嶋　久雄

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS AT THE UROLOGICAL CLINIC OF EAST SAPPORO SANJUKAI HOSPITAL IN 1983

Hitoshi TANDA, Shuji KATO, Shigeki OHNISHI,
Taketoshi SAKA and Hisao NAKAJIMA
From Urological Clinic of East Sapporo Sanjukai Hospital
(Director: Dr. H. Tanda)

A statistical study was performed on new outpatients. The total number of new outpatients in 1983 was 5,901 (male: 3,712, female: 2,189) and the male to versus female ratio was 1.7 : 1. They had urogenital diseases definitely diagnosed (4,773), undefinitely diagnosed (445), normal (272), and diseases other than urogenital (411). The outpatients who were referred to by other sources accounted for 30% of the total number. The number of operation in new outpatients was 300, circumcision and vasectomy were representative. In our experience, manual operations without surgery gave good results in the outpatients who visited our hospital at an early stage of torsion of testis.

The age, range had a peak in the thirties for males and in the 20s in females.

A statistical study was made on new outpatients according to the international diseases classification. The number of the malignant (urogential) tumors was 101 (1.9%). The major diseases of the new outpatients were cystitis (acute or chronic: 22.4%), prostatitis (16.7%), benign prostatic hypertrophy (10.4%), upper urinary tract stone (10.2%). In male the major diseases were prostatitis, benign prostatic hypertrophy, upper urinary tract stone, balanoposthitis, and in female they were cystitis, upper urinary tract stone, pyelonephritis, renalptosis.

From these results, we may conclude that our hospital playing its role as a private urological hospital.

Key words: Clinical statistics, Outpatients clinic

はじめに

東札幌三樹会病院は，札幌市の白石区に所在する民間病院である．当院は，泌尿器科のみ標榜科目で，1978年11月1日に開設し，1983年末にて満5年経た．そこで第1報として開設5年間の1983年度の外来新患統計を，第2報として，開設から5カ年間のまとめについて臨床的統計的観察をおこなったので報告する．なお，当院は現在80床（1984年8月98床の予定）のほか，人工腎透析器23台を備えている．

対象と方法

1983年1月1日より，同年12月末日までの1カ年間に当院を新患として受診した患者を対象とした．

疾患分類は，WHO の死因統計分類，International Classification of Disease（以下 I.C.D と記

* 札幌医科大学泌尿器科非常勤講師

Table 1. 外来新患の年齢層別性別分布

性別	0－10歳	11－20歳	21－30歳	31－40歳	41－50歳	51－60歳	61－70歳	71－80歳	81－90歳	91－100歳	合計
男性	415	307	686	740	451	435	344	266	61	7	3,712
女性	127	242	479	376	314	345	205	80	21	0	2,189
合計	542	549	1165	1116	765	780	549	346	82	7	5,901

Table 2. 1983年度

外来手術		
環状切開	121	(40%)
精管結紮	51	(17%)
コンヂローマ切除	35	(12%)
	(女：2)	(11%)
陰嚢水腫穿刺	32	(11%)
嵌頓包茎整復	19	(6%)
睾丸捻転整復	6	(2%)
その他	36	

Table 3(1)Ⅰ. 伝染病および寄生虫病

		例数	男	女
016	性尿器系の結核			
	腎結核	4	2	2
096	梅毒	4	3	1
098	淋菌感染	184	173	11
134.1	毛じらみ症	18	17	1

Table 3(2)Ⅱ. 新生物（悪性）

		例数	男	女
185	前立腺癌	19	19	—
186	睾丸腫瘍	5	5	—
187.0	陰茎癌	1	1	—
188	膀胱腫瘍	50	37	13
189.0	腎癌 (Grawitz 腫瘍)	6	4	2
189.1	腎盂・尿管腫瘍	5	3	2
189.2	尿道腫瘍	2	2	—
182.2	子宮癌の尿路侵襲	3	—	3

Table 3(2)Ⅱ. 新生物（良性）

222.1	外陰部コンヂローマ	45	39	6
223.8	尿道ポリープ	4	1	3
	尿道カルンケル	29	—	29

す）の第8回修正（1965年）をもとにした[1]．この分類に不適な場合，追加分類ないし修正項目として具体的に示した．また，同一患者に，泌尿器科的に独立した疾患があるときは，それぞれ別の疾患としてとりあげた．因果関係のある場合，続発性疾患は，その原因疾患のみをとりあげた．

Table 3(3)Ⅲ. 内分泌・栄養・代謝の疾患

		例数	男	女
257	睾丸機能障害			
(606)	無精子症	15	15	—
	(XXY症例)	(4)	(4)	
	乏精子症	18	18	—
	逆行性射精	1	1	—
	精管欠損	3	3	—
	血精液症	10	10	—

Table 3(3)Ⅴ. 精神障害

306.6	夜尿症	52	33	19

結果と考察

1．外来新患数

新来患者数は5,901例で，男子は3,712例(63%)，女子は2,189例(37%)であった．この男女比は1.78：1であるが，ほかの報告[2~4]と同様であった．うち他院より紹介をうけて受診した数は1,794例（30%）であった．

診断が確定したもの（確診）は4,773例（80.9%），未診は445例（7.5%），泌尿器科的正常は272例（4.6%）で，他科は411例（7.0%）であった．

受診した患者を年齢層にわけ，さらに男女別に検討した結果を Table 1 に示した．男子では30歳代をピークに，女子では20歳代をピークとした．京都大学の報告[7]の50歳代と比し興味深い．

2．外来患者手術

1983年度の外来手術数は300例でうち男子は282例，女子は18例であった．その内訳を Table 2 に示した．環状切開と精管結紮術が主であった．睾丸捻転の疑いの症例に対して用手的に捻転整腹術を試みたのが6例で，全例，再発もなく成功している．従来のすぐ手術（睾丸・精索・他側固定など）という考えは否定しないが，まず，用手的に，とくに，数時間以内の場合は，捻転を整腹させてやるべきと考えている．

3．ICD に基づく1983年度新来患者疾患統計 (Table 3 (1)～(8)参照)

淋菌感染は男子173例，女子11例経験し，年々増加

Table 3(4)X. 性尿器系の疾患

		例数	男	女
580	急性腎炎	4	3	1
581	ネフローゼ症候群	8	3	5
582	慢性腎炎	31	17	4
584	腎の萎縮	2	—	2
590.0	腎盂腎炎	137	18	119
	V U R	15	5	10
591	水腎症	23	10	13
592	腎および尿管結石			
	腎結石	88	51	37
	(両側)	(9)	(7)	(2)
	腎・尿管結石	13	9	4
	尿管結石(経過も含む)	423	287	136
	(両側)	(1)	(1)	
594	膀胱結石	10	8	2
	尿道結石	4	4	—

Table 3(5)

		例数	男	女
595	膀胱炎	681	33	648
596	亀頭包皮炎	224	224	—
597.0	尿道炎	26	24	2
597.1	尿道・膀胱炎	491	10	481
598	尿道狭窄	28	27	1
600	前立腺肥大症	528	528	—
	膀胱頸部硬化症	17	17	—
601	前立腺炎	847	847	—
	(うち急性前立腺炎	27)		
603	陰嚢水腫	50	50	—
604	睾丸炎	3	3	—
	副睾丸炎	100	100	—
	(両側)	(2)		—
605	包茎	217	217	
607	その他 睾丸陰転	13	13	—
	嵌頓包茎	20	20	
	陰茎異物	3	3	—
	尿道異物	1	1	—
	膀胱異物	2	1	1

の傾向と，若年化の傾向とが印象ずけられた．

睾丸腫瘍は5例で，組織は全例 seminoma であった．膀胱腫瘍は50例経験し，この性別・年齢層分布を Table 4 に示した．この中で，血尿を主訴とする20歳代の5例を経験した．このことは，たとえ，若年層であれ，無症候性血尿の場合には，内視鏡検査の必要性を痛感している．

無精子症15例のうち XXY 症例4例を経験し，いずれも testosteron 値の低下を認めていた．睾丸機能障害として ICD の分類番号606も一括して257に記入した．

Table 3(6)XIV. 先天異常

752	性器の先天異常	例数	男	女
752.1	停留睾丸	16	16	—
	(両：1，右：11，左：4)			
	遊走睾丸	6	6	—
752.2	尿道下裂	2	2	—
753	泌尿器系の先天異常			
753.1	腎嚢胞	26	17	9
	嚢胞腎	7	5	2
	廻転腎	4	2	2
	腎杯憩室	4	3	1
	馬蹄鉄腎	6	5	1
	重複腎盂	27	7	20
753.2	下大静脈后尿管	1	1	0
	尿管瘤	1	0	1
	その他 腎下垂	75	7	68
	旁尿道口嚢腫	4	4	—

Table 3(7)XVI. 症状および診断名不明確の状態

786	性尿器系に関する症状	例数	男	女
786.0	疼痛	83	48	35
786.1	尿閉	3	1	2
786.2	尿失禁	16	5	11
786.3	頻尿	33	19	14
786.5	尿毒症	45	30	15
	急性腎不全(無尿)	8	3	5
789.0	蛋白尿	30	20	10
789.3	血尿	147	89	58
	腎出血	17	10	7

Table 3(8)XVII. 不慮の事故

			例数	男	女
E810	腎外傷		4	3	1
	尿道外傷	完全断裂	4	4	—
		不完全断裂	12	12	—
	睾丸打撲		7	7	—
	陰茎損傷		12	12	—
	陰茎折症		2	2	—
	神経因性膀胱		111	56	55
	その他瘻孔状態		7	4	3

腎盂腎炎（急性）は137例受診した．その性別・年齢層別分布を Table 5 に示した．

尿管結石症は423例で，この性別・年齢層別分布を Table 6 に示した．尿道結石（膀胱結石）のうち小結石の場合，当院では，排尿中，亀頭部先端を手指で握りしめ，ある程度尿道腔内に尿が貯った瞬間に，握りしめた手を亀頭部より離し排尿を試み，この際排石をともなうことを期待させる方法を患者に試み，成功している．

膀胱炎681例の性別・年齢層別分布を Table 7 に

Table 4. 主疾患の年齢層別の症例数
(188. 膀胱腫瘍：50例)

性別／年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男 ： 37	—	—	3	2	3	8	8	9	4
女 ： 13	—	—	2	—	—	3	4	1	3

Table 5. 主疾患の年齢層別の症例数
(590. 急性腎盂腎炎： 137例)

性別／年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男 ： 18	3	2	1	3	4	2	3	0	0
女 ： 119	6	14	31	18	18	24	5	3	0

Table 6. 主疾患の年齢層別の症例数
(592. 尿管結石症：423例)

性別／年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男 ： 287	0	10	52	89	75	41	13	5	2
女 ： 136	0	15	31	34	19	24	10	2	1

経過せる尿管結石 男6
女3
尿管瘤結石 男2
女1 を含む

Table 7. 主疾患の年齢層別の症例数
(595. 急性膀胱炎：681例)

性別／年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男 ： 33	19	4	2	4	2	0	0	2	0
女 ： 648	26	94	224	107	86	57	29	22	3

Table 8. 主疾患の年齢層別の症例数
(600. 前立腺肥大症：528例)

性別／年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男 ： 528	—	—	—	—	7	94	187	192	48
(膀胱頸部硬化症) 17				(1)	(3)	(9)	(3)	(1)	(0)

Table 9. 主疾患の年断層別の症例数
(601. 前立腺炎：847例)

性別／年齢層	～10歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81歳～
男 ： 847	—	58	221	254	164	120	25	5	0
急性(膿瘍) 24		2	5	5	2	10	—	—	—

示した．同様に前立腺肥大症，前立腺炎を Table 8 と Table 9 にそれぞれ示した．

性器の先天異常では，停留睾丸を16例経験した．腎の奇型では，嚢胞腎7例，馬蹄鉄腎6例が主であり，稀有として下大静脈後尿管も1例経験した．

XVIの項目で，疼痛は尿路結石を疑わしめるものが大部分であるが，I.V.P など X-P 検査上不明確なものをこの範ちゅうに入れた．血尿も同様である．

不適当な分類となる神経因性膀胱をXⅦの中にまとめた．まれな陰茎折症を2例経験し，手術的に成功している．陰茎を切断した1例をも経験した．

ま　と　め

1．泌尿器系悪性腫瘍は101例で，有疾患数(5,128例)に対して1.9％であった．この数字は，ほかの大学関係の外来統計の報告から比し，若干少ない．しかしこの多くの報告の中に前立腺肥大症をも含まれているがわれわれの統計では除いた数字である．

2．外来新来患者の主疾患を Table 10 に，男女別主疾患を Table 11 にまとめた．

男子では，前立腺炎26.2％，前立腺肥大症16.4％，上部尿路結石症10.4％，が主疾患であった．女子では膀胱炎59.5％，上部尿路結石症が主疾患であった．男女あわせると，当院の1983年度の新来患者の主疾患は，非特異な感染症が半数弱で，ついで，前立腺肥大症，尿路結石症であった．ほかの報告とほぼ同様であった[5~7]．

Table 10.　まとめ(1) 1983年度外来新患の主疾患

主　疾　患	例数	%
1．膀胱炎(急性・慢性)	1172	(22.4)
2．前立腺炎(急性・慢性)	871	(16.7)
3．前立腺肥大症(ＢＮＣ含む)	545	(10.4)
4．上部尿路結石症	524	(10.2)
5．亀頭包皮炎	224	(4.3)
6．包　茎	217	(4.1)
7．淋菌性感染	184	(3.5)
8．腎盂腎炎	119	(2.3)
9．神経因性膀胱	110	(2.1)
10．副睾丸炎	100	(1.9)
11．その他　腎下垂、陰嚢水腫、膀胱腫瘍		

(　)％ 有疾患数　5218例に対する割合

Table 11.　まとめ(2) 1983年度新来患者男・女の主疾患

(男) 主疾患	例数	%	順位	(女) 主疾患	例数	%
前立腺炎	871	(26.2)	1	膀胱炎	1129	(59.5)
前立腺肥大症	545	(16.4)	2	上部尿路結石	177	(9.3)
上部尿路結石	347	(10.4)	3	腎盂腎炎	119	(6.3)
亀頭包皮尖	224	(6.7)	4	腎下垂	68	(3.6)
包　茎	217	(6.5)	5	神経因性膀胱	55	(2.9)

(　)％は有疾患数に対する割合
男：3320
女：1898

この論文の主旨は1984年3月17日日本泌尿器科学会第271回北海道地方会にて発表した．

文　　献

1) 厚生省編：死亡診断書，死産証書，出生証明書の書きかた，疾病，傷害，死因統計分類；厚生統計協会，東京，1968
2) 藤田公正：佐久総合病院後腹膜科の診療活動報告．農村医科 **23**：20～26，1974
3) 高安久雄・小川秋実・小磯謙吉・上野　精・宮下厚・河村　毅・小峰志訓・福谷恵子・岸　洋一・寺田洋子・石田　肇・秋間秀一・石井泰憲・塚田修・東原英二・中村昌平・小林克巳・石田仁男・篠原　充・横山博美・阿部定則・蓑和田滋・多胡紀一郎：東大泌尿器科8年間の疾患統計．日泌尿会誌 **69**：917～925，1978
4) 玉置俊晃・桑原守正・米沢正隆・今川章夫・前川浩次・湯浅　誠・滝川　浩・淡河洋一：高松赤十字病院泌尿器科における過去3年間の臨床統計．西日泌尿 **43**：1267～1270，1981
5) 大森弘之・松村陽右・朝日俊彦・尾崎雄治郎・平野　学・森岡政明・光畑直喜・陶山文三・吉本純・石戸則孝・金重哲三・宮田和豊・沖宗正明・津島知靖・赤木隆文・入江　伸・大橋洋三・小浜常昭・水野全裕：岡山大学泌尿器科教室における1963年より1977年までの15年間の外来統計．西日泌尿 **43**：375～380，1981
6) 堀　夏樹・大串典雅・袴田隆義・川井　忠・森脩・斎藤　薫・波部英夫・鈴木紀元・浜野耕一郎・前田　真・保科　彰・柳川　真・杉村芳樹・西井正治・米田勝紀・田島和洋・浦田英男・千種一郎・栃木宏水・森下文夫・堀内英輔・加藤広海・朴木繁博・山崎義久・多田　茂：三重大学泌尿器科における1968年～1979年の12年間の外来患者臨床統計．泌尿紀要 **26**：1101～1107，1980

7) 吉田 修・友吉唯夫・澤西謙次・桐山啓夫・川村寿一・小松洋輔・宮川美栄子・岡田謙一郎・岡部達士郎・竹内秀雄・町田修三・添田朝樹・細川進一・大上和行・朴 勺・林正健二・山内民男・岡田裕作・真田俊吾・東 義人・池田達夫・岩崎卓夫・大石賢二・田中 陽一・飛田 収一・瀧洋二・野々村光生・橋村孝幸・荒井陽一・寺地敏郎・松田公志・山本 敏・西淵繁夫・堀井泰樹・荒木勇雄・大森孝平・小倉啓司・金岡俊雄・金丸洋史・谷口隆信・上田 真・郭 俊逸・筧 善行・近藤典子・森 啓高・吉貴達寛・吉村直樹・小川 修・喜多芳彦・寺井章人・鳶巣賢一・畑山忠・日裏 勝・川喜田睦司：京都大学医学部附属病院泌尿器科外来患者の臨床統計（1977～1982年）．泌尿紀要 29：979～989，1983

（1984年5月4日受付）